

編集後記

第九号をお届け致します。今回は、六本の論考を掲載することができました。ご投稿頂いた先生方には、感謝を申し上げます次第です。

旧東海学園女子短期大学の国文学科を母胎として生まれたこの学会も、大学への改組にともない、「東海学園大学日本文化学会」と名称を変えて、今日に至っております。

旧国文学科の教員が、それぞれに人文学部人文学科の「日本語・日本文化コース」、「創作文芸コース」、「アナウンス・情報メディアコース」などに所属し、この学会を支えてきたことをここに記しておきたいと思います。

そして、今年、右のコースにくわえて、「マンガ・映像コース」が新設されました。今回、この雑誌にも、マンガ論が掲載され、こうした動きに彩りを添えています。

マンガはいまや、世界にインパクトを与える日本文化の一つです。近年、評論や研究が盛んになり、他ジャンルにも刺激を与えていることは、喜ぶべき事です。

今後、この雑誌は、多角的に日本文化を掘り下げる雑誌でありたいと考えております。論文等の「投稿規定」は雑誌に掲載されておりますので、奮って原稿をお寄せ下さい。

また、東海学園大学人文学部の教員、学生にかぎらず、ひろく一般の方々の入会も歓迎致しております。どうかご参加下さい。

(加)

東海学園 言語・文学・文化

第九号 (通巻第六十八号)

平成二十二年 三月二十日 印刷

平成二十二年 三月三十日 発行 非売品

編集 名古屋市中平区中平二丁目九〇一番地
発行 東海学園大学日本文化学会

代表 加藤 孝 男

電話 (五三)八〇一―二二〇一
振替 〇〇八三〇一五―二九三二二

印刷所 豊橋市下地町字宮腰二四

(有) イシグロ 高速印刷